

CASBEE-建築(新築)2016年版
柏市水道部庁舎

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE 柏2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										4.2
Q1 室内環境							0.40	-	-	4.1
1 音環境						4.6	0.15	-	-	4.6
1.1 室内騒音レベル		騒音レベルを40dB以下にする。				5.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						4.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		気密性を確保し、T-2以上のサッシを採用する。				5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		執務室は上階床下まで間仕切+グラスウール				4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板(DR)を使用。				4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						4.0	0.35	-	-	4.0
2.1 室温制御						3.8	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		庇兼バルコニーを完備し日射熱負荷を抑制				5.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		ゾーンごとで温度管理が可能な計画				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		執務室は床吹き出し空調とし良好な執務環境を確保				5.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.7	0.25	-	-	3.7
3.1 昼光利用						4.0	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率2.0%。				4.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備		トップライトを設置				4.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		ブラインドと庇を組み合わせて設置。				4.0	1.00	-	-	
3.3 照度		LED+外光による照度の確保と省エネ対策				4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.4	0.25	-	-	4.4
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		全ての使用材料建材をF☆☆☆☆を使用する。				5.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積1/20以上を確保。				4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		交通量の少なく道路から離れた南・西に配置				4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体を禁煙としている。				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	4.1
1 機能性						4.3	0.40	-	-	4.3
1.1 機能性・使いやすさ						3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		一人あたりの執務スペース=10.16㎡を確保。				4.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たしている。				4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室の天井高さ=2.70mを確保。				4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース割合6.6%を確保+自動販売機を設置。				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		「水」を意識した内装計画。				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		インフラ関係は露出配管とし、更新に配慮した計画				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		各階にメンテナンスバルコニーを設けメンテナンス性を確保				5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.3	0.30	-	-	4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						4.6	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		保有耐力1.5を確保				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		20年を目標とし設計				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		30年を目標とし設計				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		30年を目標とし設計				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		床吹き出し空調の採用、全熱交換器による				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		更新しやすいよう各階同一位置にパイプシャフト、メンテナンスピットを				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		長寿命のLEDや太陽光発電を採用				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		通常より支持ピッチを細かく設定				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		防災庁舎としてルートの多様化に対応、増設等が可能な経路等を確				5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	各階の階高4.0m以上を確保。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.26	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	各階同一位置シャフトを設置かつインフラ関係は露出配管	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	各階同一位置シャフト+OAフロアによる更新性の向上	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	天井ふところを確保し、更新性に配慮	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		外構緑化指数:18.60%、建物緑化指数:27.96%。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		隣地との色彩の調和を行っている。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		主要道路に面してボラン	4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		エントランスにトップライトを利用した風光ポイドを設置。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率:68.76%、中・高木、ピロティ等の水平投影面積率:10.33%	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		バルコニー設置+壁面緑化、壁面太陽光を備えたフレームを設置	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		太陽光発電パネル+自然換気システム	5.0	0.10	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.78	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	自然換気システム・太陽光発電御パネル等運用方法説明。	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		節水型衛生器具の採用、植栽の散水に井水を利用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	屋上・壁面・地上部の緑化への散水として利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		インターロッキングブロック、畳、ふすま	5.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		ベンチの座面に使用	5.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		再生砕石	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		全ての使用材料建材をF☆☆☆☆を使用する。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	COPが低いものを採用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	4.1
1 地球温暖化への配慮		建物面、地上面に緑化、太陽光発電パネルによる敷地内温度上昇	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			4.0	0.33	-	-	4.0
2.1 大気汚染防止		発電機にはNox等の大気汚染物質が少ないものを採用	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		基準値を把握し有害物質の少ない機器を選定	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	浸透枳、透水性舗装等による雨水流出抑制	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	1WAY車両動線としスムーズかつアイドリング防止対策	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみ庫を設け仕分等可能な広さを確保	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制が地域で隣地への影響を考慮し日影を検討。既存より改	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ブラインドによる漏光の防止、外灯は足元等とし豊かな環境を演出	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	バルコニーによる反射光防止、南面のサッシの適正化	4.0	0.30	-	-	